

ふれあいニュースレター

【政府原子力被災者生活支援チームからのお知らせ】

ニュース 4

- G7各大臣会合で福島のPR
- 福島第一廃炉国際フォーラム開催

インタビュー 2・3

- みやこビスイーツゆい(田村市)
- 岡田書店(檜葉町)

今年も夜ノ森の 桜が満開です

今春、富岡町では初の特例宿泊を実施しました。お花見の時期に合わせての実施となり、きれいに咲いた夜ノ森の桜を見ることが出来ました。



「都路たまご」から生み出したスイーツ で都路の活性化と雇用機会の創出を

◆◇みやこじスイーツゆい(田村市)◆◇

都路のみんなで作った 新しい特産品

本年3月24日、「都路たまご」を使用した洋菓子店「みやこじスイーツゆい」をオープンしました。商品棚には、地元では“じゅうねん”と呼ばれる田村市特産「えごま」を使ったシフォンケーキや2種類のプリンなどが並んでいます。

商品開発には東京プリンスホテル製菓料理長の内藤武志氏に協力いただき、オープンの1年前から従業員の技術指導に月に一度来町していただきました。また、地元船引高校家庭科クラブの生徒の皆さんにも参加いただき、情報発信源である女子高生の感性を活かした商品開発に取り組みしました。

黄色いトレーラーハウス が町のシンボルに

地元沿線では『にいぱっぱ』と呼ばれる国道288号線沿いに、黄色いトレーラーハウスが一際目を引くと思います。地元の方だけでなく隣町からもお客さんが来られま

す。また、作業員の方も立ち寄られます。

従業員の3名が都路、1名が常葉と全員地元出身です。

お店のロゴやリーフレットもみんなで考えて作りました。



運営は都路商工会が行っており、都路を盛り上げるため日々新たな商品開発や今後の運営に頭を悩ませてます。

更なる飛躍を目指して

今後は新たな地元の農産物を使った商品開発を行い、都路を内外に発信できる特産品作りに取り組んでいきます。



美味しそうなスイーツが並ぶ棚



店内でもお召し上がりいただけます



お忙しい接客の中対応いただきました



私達4人が笑顔でお迎えします。「都路たまご」のシフォンケーキやプリンを是非お召し上がりください。

みやこじスイーツゆい
のみなさん



みやこじスイーツゆい

■住 所 福島県田村市都路町岩井沢道ノ内65-1
■電 話 0247-73-8380



みんなが集まり笑顔が広がる町の古本屋さんになれるように

◆◆古本屋 岡田書店(檜葉町)◆◆

手作りの店舗で早期に 営業開始

岡田書店は祖父の兄が戦前に創業した古本屋が始まりで、父が9年前までいわきで営業していました。私は24歳頃から父の手伝いを始め、試行錯誤の中、古いマンガに興味を持ち、現在のスタイルになりました。

震災時檜葉町のこの場所には祖母と両親そして兄家族が住んでいました。避難指示解除の3カ月前にここに書店を構えようと準備を始め、解除から1カ月後に開店にこぎつけました。

地元客や避難先からも来店

地元の方だけでなく避難先から来たという方も来店して下さいます。また、国道6号から見えるのぼりが目に留まり来店される方もいます。

「檜葉にはまだ娯楽がありませんのでこのお店があって助かる」と笑顔で声をかけていただきました。相馬や南相馬からも月に1、2回来店してく

ださるお客様もいます。新宿、所沢、小名浜など東日本を駆け回り、年20回程度の催事（展示販売会）もこなしています。

みんなが集まる古本屋さんを目指して

現在の店舗は仮店舗で雨漏りがひどく8月には取り壊す予定です。隣の納屋を改装し、本格的な店舗にしたいと思っています。現在の店舗より広くなるので、机を入れてみんなが集まれるようなスペースを確保したいです。

お客さんの笑顔と「ありがとう」の一言が今一番うれしいです。



福島県内市町村の歴史書なども取りそろえる



貴重な『月刊漫画ガロ』



営業中ののぼりが6号線沿いにも



お近くへお越しの際は
お立ち寄りください。

岡田書店
店主 岡田 悠 さん



古本屋 岡田書店

■住 所 双葉郡檜葉町大字山田岡字竹ノ花11-2

■連絡先 0246-34-8060



＜エネルギー大臣会合での
歓迎レセプションの様子＞

本年は日本がG7サミットの議長国で国内各地で大臣会合が開催されています。4月23日・24日には新潟市で農業大臣会合が行われました。初日の歓迎レセプションと閣僚夕食会で福島県産の食材を使った料理を提供し、福島県産飲食品の安全性とおいしさをPRしました。また、「輸入規制が、科学的知見と根拠に基づく国際ルールを尊重

G7各大臣会合で 福島のPRが行われました

することにコミットする」などの文言が「新潟宣言」に盛り込まれました。

続いて5月1日・2日、北九州市で開催されたエネルギー大臣会合では、初日レセプションで、福島県産の樽酒が鏡割りに使用され、翌日のランチでも福島県産食材を使った料理が提供されました。会場やプレスセンターには、被災地に関する展示ブースを設け、福島の今の姿を国内外に発信しました。本会合の取りまとめ文書では、福島の風評払拭に向けて、「日本が行っている科学的な調査や情報発信等を歓迎する」などの文言が盛り込まれました。

国際会合でのこうした取組は、日本や福島に対する風評の払拭の一助になるとが期待されます。



＜フォーラムの様子＞

福島県の展示

廃炉国際フォーラムでは福島県のブースも設置し、国内外の関係者に現在の福島県の現状や地元企業の技術のPRをしました。



廃炉・除染ロボット研究会、
福島県庁の展示の様子

4月10日・11日に、スパリゾートハワイアンズ（いわき市）で第1回福島第一廃炉国際フォーラムが開催されました。

国際原子力機関や経済協力開発機構、原子力機関などの国際機関の協力を得て、15カ国から600名を超える方々に参加いただき、福島第一原発の最新状況や専門的な技術論にとどまらず、地元とのコミュニケーションのあり方についても、議論されました。特に、事故炉の廃炉を経験した英国のコープラン

ド市長や下院議員からは、廃炉を進めていくためには地元自治体とのコミュニケーションが重要との説明がありました。

また、福島県で廃炉に関するリスクコミュニケーション活動に取り組まれている地元の方々からも、一方的な情報提供ではなく、地域コミュニティにおける双方向のコミュニケーションが重要といった意見が出されました。

今回のフォーラムでの議論を踏まえ、次回以降も継続して開催していきます。

第1回福島第一廃炉国際 フォーラムが開催されました

バックナンバーや関連プレスリリースは
原子力被災者生活支援チームのホームページからご覧ください。